
タイトルのないストーリー ~原点~

杏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイトルのないストーリー 〈原点〉

【Nコード】

N7301Y

【作者名】

杏

【あらすじ】

マサラにすむリオン、ある幼い時にプラントとスファイア遺跡に来てとんでもない事故に出会う、

赤井や青木たちはオーキド博士からポケモンをもらったが自分からもられないという不満はある事がきっかけである……、

第1話 スファイア遺跡（前書き）

まだまだ俺もにわかだな・・・

第1話 スフィア遺跡

俺はリオン、関東マサラタウン出身、
幼馴染は赤井と、
青木と、
緑山だ、

幼い頃近所に住んでいたプラントお兄さんと東北にやってきた、

ここはスフィア遺跡と言ってたが幼い時の記憶なのであまり覚えていない、

あの出来事以外は………、

*

「いいか、絶対手を離すなよ、お前は方向音痴だしな。」

「そんな事言われなくても迷わないもん！」

当時は4 5歳くらい、

いや、6歳くらいだったかな？

「ここはスフィア遺跡って言うんだぞ、よく覚えとけ。」

まあ、その時は全く覚えるつもりはなかった、

8 9歳頃になって初めてすごい遺跡だという事を知った、
プラントさんはすごいトレーナーという事を知ったのもその頃だ、

第2話 アスフィア

俺はいつの間にかアスフィアのいる部屋に来ていた、
とても部屋の中は広く俺とアスフィアのいる部屋が小さく感じる、

「……………よく来たな、若造よ。」

だが当時の俺は恐怖の余り何もできなかった、

アスフィアはそれが分かってたようで自分の声ではなく俺の『心の
中』に話しかけてきた、

「お前は選ばれたのだ、また会うだろう、……………証拠にポケ
モンと話せるようにしてやる、……………、また会おう。」

その時視界が真っ白のような真っ暗のような不思議な状態になって
気を失った、

*

「おーい、起きろ、……………たくよお、アスフィアに説教さ
れちまったぜ。」

第3話 藤さんが送ってくれるらしいが？（前書き）

藤 またきってよみます、

第3話 藤さんが送ってくれるらしいが？

今日はオーキド博士がポケモンをくれる日、

「いってきまーす！」

そしてすぐに研究所に着いた、

もう既に赤井と青木と緑山が来ていた、

「あ、リオン君、申し訳ないんじゃないじゃが君は他のポケモンをいろいろな事情であげられないんじゃないじゃ。」

「そんな〜。」

緑山と青木はゲラゲラと笑う、

赤井は正義感が強いのかリオンをかばった、

「でも藤（あ）が『なんかとっておきのポケモン連れてきたるわー』とかいっておったぞ。」

「あ〜、よかった〜。」

*

翌日、

「博士、いつくるんですか？」

「今日来るとか言ってたんじゃが……。」

その時オーキド博士のポケギアが鳴った、

「はかせ、連れてくるポケモン逃げちまったでんな、しばらく連れて来れそうにないわ、リオンごめんな、今度なんかおごつてやるさかい、ほな！」

リオンはショックで呆然と立ち尽くしている、
そして行動に出た、

「こんなことしてる場合か！ 探してくる！」

「おい、リオン君？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7301y/>

タイトルのないストーリー ~原点~

2011年12月16日19時49分発行